

【専門教育科目/看護の展開/母性看護学】

科目名		ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
母性看護学実習		NSP34_006	必修	2	3	後期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
飯嶋 玲奈		405	reina.ijima		水曜日 9:00～13:00	
授業の目的・概要		妊娠・分娩・産褥期における母性および胎児・新生児におけるウェルネスレベルの看護過程の展開について臨床実習を通してその実際を学ぶ。また、母親や父親が親となる過程を理解し、母子と家族との援助的関係の形成、生命への畏敬の念をもち倫理的配慮に基づいた看護を学ぶ。退院後の生活を見通した保健指導の必要性、母性を取り巻く地域の保健医療福祉チームとの連携と看護の役割を理解し、多職種と協働できる基礎的能力を身につける。実習を通して、自己の母性観(父性観)や生命観を考察し、母性看護、母子保健の役割について理解を深める。				
学 習 上 の 助 言		母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱで習得した知識や技術、資料等を十分活用する。				
教 科 書		・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(母性看護学①) /著:森恵美 他 /医学書院 /2023 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論(母性看護学②) /著:森恵美 他 /医学書院 /2023 [2 冊指定]				
参 考 書		・最新産科学 正常編/著:荒木勤/文光堂/2008、最新産科学 異常編/著:荒木勤/文光堂/2012 ・新生児学入門/著:仁志田博司/医学書院/2018 ・根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画 /編:中村幸代 /南江堂 ・ウェルネスから見た母性看護過程+病態関連図 第4版 /編:佐世正勝 他 /医学書院 /2021 ・ウェルネス看護診断にもとづく 母性看護過程 第3版 /編:太田操 /医歯薬出版 /2017				
学生が達成すべき行動目標						関連卒業認定・学位授与方針
①	妊娠、分娩、産褥期および新生児期の母子の正常な経過を理解できる。					NS(1)(3)
②	妊娠、分娩、産褥期および新生児期にある母子の、心理・社会的特徴について理解できる。					NS(1)(3)
③	妊娠、分娩、産褥期および新生児期にある母子の家族の看護に必要な基本的技術が実践できる					NS(1)(5)
④	産褥期、新生児期の母子の健康状態(または健康上の問題)を判断し、健康増進に向けて必要な看護を計画、実践、評価できる。					NS(1)(5)
⑤	母子保健医療チームにおける看護師の役割が理解できる。					NS(4)
⑥	リプロダクティブ・ヘルス/ライツを前提とし、母性の健康と対象者の価値観を尊重することができる。					NS(1)
授 業 計 画						
1. 実習期間：3 年次後期、2 週間 2. 実習展開：実習要項参照 3. 実習内容 1) 実習初日に、実習前試験を実施し、最終日に事後試験を行う。 2) 病棟実習 ①産科病棟の周産期における看護の特徴を理解する。 ②産褥期、新生児期にある母子の経過、看護を理解する。 ・産褥期、新生児の経過をアセスメントする。 ・産褥期、新生児期の母子の看護ケアを実践する。 ③分娩期の母子の経過、看護を理解する。 ・母子の健康状態、分娩経過をアセスメントする。 ・分娩経過に合わせた看護を見学、実践する。 3) 外来実習 ①産科外来における看護の特徴を理解する。 ②妊娠期にある母子の経過、看護を理解する。 ・妊婦健康診査を受ける妊婦と胎児の経過をアセスメントし、必要な保健指導を理解する。 ・妊娠期の集団指導や個別指導を見学する。 ③退院後の母子の経過や特徴を理解する。 ・産後 2 週間健診、1 ヶ月健診、母乳外来を見学する。 4) NICU 実習 ①医療的ケア児について理解する。 ・医療的ケア児を取り巻く環境や特徴について理解する。 ・医療的ケア児の看護を見学する (一部の施設)。 ・生命倫理について考察する。 5) 地域実習 ①地域で実践されている母子保健事業を見学し、切れ目のない支援の実際を理解する。 ・市役所等で実施されている妊娠期の母子保健の看護の実際を見学する。 ・産前産後ケアセンターママの里における看護の実際を見学し、役割や特徴を理解する。						

【専門教育科目/看護の展開/母性看護学】

4. 日々の実習の流れ ・実習初日に、ゴールシートを記載する。 ・毎朝各自の行動計画を共有する。 ・対象者の看護計画を立案しケアの実施、評価を行う。 ・学生運営によるテーマカンファレンスを毎日 30 分程度行う。 ・実習記録（日々の記録、看護過程記録等）を記載する。 5. 実習の学びのまとめ ・最終カンファレンスで母性看護学実習での学びを共有する。 ・母性看護学実習で学んだことをレポートとしてまとめ提出する。 ・ゴールシートを記載し、2 週間の学びと達成状況を振り返る。							
学習課題・学習時間（時間）							
母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識、技術の応用が求められる。基本的知識、技術、看護過程の展開を再度確認してから実習に臨むこと。							
必要時間： 30 時間							
達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		15	5	0	0	80	100
総合力指標	知識・技術力	15	0	0	0	5	20
	思考・推論・創造する力	0	5	0	0	10	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	5	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	40	40
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
レポート	①	✓	実習のまとめとして、実習終了時にレポートを課す。 テーマ等の詳細は実習オリエンテーション時に提示する。				
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
その他	①	✓	上記の指標を、看護展開や実習記録のほか、実習取り組み姿勢や態度から総合的に評価する。見学や看護実践を通して学生が到達すべき行動目標①～⑥について自己評価し、実習最終日に実習指導教員と面接を実施する。なお、実習前後の試験も評価に含まれるため復習をしっかりとしておくこと。				
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教 員 の 実 務 経 験	総合周産期母子医療センターにおいて助産師として、5 年の臨床経験を有し、かつ母性看護学および助産学の 7 年の教育経験を有する者が教授する。						
実践的授業の内容	助産師として実務経験のある教員や臨床の指導者による指導のもと、既習内容（母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、Ⅱ）の知識を結びつけるだけでなく、対象者の特性に応じた母性看護過程の展開や技術の実践を目指す。						
その他	・母性看護学実習臨地実習要項をよく読み理解しておくこと。 ・実習施設では、実習指導者の指示に従って主体的に行動すること。 ・感染予防行動を徹底するとともに、自身の体調管理を心がけて実習に臨むこと。 ・感染症等社会情勢により臨床における実習が困難となった場合には、学内でシミュレーション実習を行う場合がある。 ・行政機関における母子保健事業が土日に開催される場合がある（別日を休日に設定）。 ・施設実習の日を 1 日でも欠席すると再実習の対象となる。 ・遅刻・早退は 1 回につき 5 点、欠席は 1 日につき 10 点を総合得点から減点とする。 ・記録の提出遅れや忘れは、1 種（1 回）につき 5 点減点する。						